

「2020年7～9月期GDP(1次速報値)」の概要

- 11月16日に内閣府が公表した2020年7～9月期GDP(国内総生産)成長率の1次速報値をみますと、物価上昇の影響を除いた実質GDP(季節調整済)は、4～6月期比+5.0%、年率換算で+21.4%と4四半期振りのプラス成長となりました(前期の伸び率▲28.8%)。これは、比較可能な1980年以降で過去最大の伸びとなります。
- なお、12月8日に2次速報値が公表され、前期比年率で+22.9%に上方改訂されました。これは主に個人消費と設備投資の増加によるものですが、全体の傾向は大きく変化していません。
- この回復は、新型コロナウイルス感染症(以下感染症)の感染拡大の影響により経済が縮小した4～6月期から、緊急事態宣言解除を契機に社会経済活動が段階的に再開されたことによるものです。さらに、特別定額給付金や持続化給付金、Go Toトラベル事業等、12兆円を超える各種支援策や日銀の異次元の新型コロナ対応策による下支えの効果も大きいものと考えられます。
- さて、日本の7～9月期の実質GDP前期比+5.0%に対し、民間需要(民需)、公的需要(公需)、純輸出(外需)ごとの寄与度で見ますと、外需は+2.9%と3四半期振りに大幅なプラス寄与に転化しています。民需も+1.5%と4四半期振りにプラス寄与となっています。とくに、個人消費が+2.6%の寄与度と大きく増加に貢献しています。公需は+0.5%と3四半期振りのプラス寄与です。
- もっとも、実質GDP全体の実額(季節調整済、年率換算)は、7～9月期で507.6兆円と、500兆円を回復しましたが(4～6月期483.6兆円)、感染症拡大前の2019年10～12月期の529.6兆円を22.0兆円、▲4.2%下回っており、経済の水準は依然として、感染症拡大以前の水準を大きく下回っています。
- 先行き10～12月期については、引続き回復傾向を辿るとみられますが、足もと、感染症の陽性者数が再び顕著に増加し、一部の地公体では国民への自粛要請を再開する事態に至っており、景気の回復ペースは極めて緩やかなものに止まると考えられます。
- この点、西村経済財政政策担当大臣は、統計公表後の大臣談話で、「国際機関の見通しでも日本の成長率の戻りが遅いとされており、さらに、欧米を中心とする感染再拡大による輸出や生産への影響や、足下における国内の感染者数の増加による個人消費への影響など下振れリスクに十分な注意が必要である」と言及しています。
- 次に、7～9月期の実質GDPを需要項目別にみますと、まず、民需では、個人消費(民間最終消費支出)が前期比(実質、季節調整済、以下同じ)+4.7%と4四半期振りの大幅なプラスとなっています(4～6月期同▲8.1%)。
- 外出・移動制限や各種イベントの中止、店舗・施設の営業自粛や営業時間短縮といった感染症の拡大防止策が徐々に緩和され、外食、娯楽サービス、宿泊等が増加に寄与したものとみられます。また、特別定額給付金の効果で、家電や自動車など耐久財の販売も好調でした。
- この間、7～9月期の雇用者報酬は、実質ベースで前期比+0.5%と4～6月期の伸び率(同▲3.8%)から大きく回復しましたが、前年同期比では▲3.0%減少し、賃金・所得環境は依然として感染症の影響が色濃く残っています。
- 一方、設備投資は、前期比▲3.4%と2四半期連続でマイナスとなり、減少に歯止めがかかっていません。業績不安や先行き不透明感から企業は投資を先送り・中止したことが減少に寄与しています(4～6月期同▲4.5%)。
- 一方、公需では、政府最終消費支出は、4～6月期に広がった受診控えの反動で医療費が増えたほか、「Go To トラベル」の政府負担分の増加から、前期比+2.2%と2四半期振りの増加となっています(4～6月期同▲0.4%)。また、公共工事の公的固定資本形成は、国土強靱化予算の執行等から前期比+0.4%と2四半期連続で増加しています。
- 外需は、輸出が前期比+7.0%と3四半期振りの大幅な増加(4～6月期同▲17.4%)となっています。欧米における都市封鎖の解除等、世界的な経済活動の再開から、とくに先行して景気回復している中国や米国向けに自動車関連の輸出が増えています。もっとも、GDP上はサービスの輸出に区分されるインバウンド(訪日客)消費は、引続きほぼ消滅した状況が続いています。
- 一方、輸入は前期比▲9.8%と2四半期振りに大幅に減少しています(4～6月期同+2.2%)。輸入の減少は、GDP統計上、成長率の押し上げ要因となりますが、実は、輸入の減少が7～9月期の前期比成長率+5.0%のうち+1.8%プラスに寄与しています。輸入の減少は、国内需要の回復テンポが鈍いことが、その背景として存在しています。

(筑波総研チーフエコノミスト 渋谷康一郎)